

広報

まるごと
“リア美”

けせんぬま・もとよし広域

2024. 6. 1
No. 81

- ②……………近年のリア美の様子
- ③……………開館 30 周年のリア美
- ④……………リア美円卓会議
- ⑤……………リア美もったいないプロジェクト
- ⑥……………開館 30 周年記念展企画ワークショップ
- ⑦……………開館 30 周年記念展とデザインコンテスト
- ⑧……………ご利用案内／お問合せ先

発行／気仙沼・本吉地域広域行政事務組合
(気仙沼市赤岩五駄鱈 43-2／TEL:0226-22-9111)

30th

開館 30 周年！



リアヌ・アーク 美術館

本号は、前特集号(2023年6月1日号)に続く、「リアス・アーク美術館特集号」の第4弾となります。第1号では当館の施設概要やご利用方法のほか、見どころや事業内容などを、第2号では当館の「教育普及事業」の活動内容など、第3号では常設展を中心としてご紹介しました。

今回は、本年度に開館30周年を迎える当館の近年の取り組みや事業についてご紹介いたします。前号と併せて保存版としてご利用ください。

近年のリア美の様子

リアス・アーク美術館では、新型コロナウイルス感染症拡大期、いわゆるコロナ禍における人々の移動・活動の自粛等により、影響が最も顕著であった令和2年度には入館者数が開館以来最低を記録するまで激減しました。

令和5年度は5月に同感染症が5類へ移行されたこともあり、入館者数は約3万3千人と、少しずつですが回復傾向にあり、コロナ禍前の数値へと戻りつつあります。

展覧会は通常通り、3種の常設展に加え東北在住作家の美術作品展をはじめ、小学生の絵画公



市内公民館の講座にて美術常設展の作品を鑑賞

募展や市民参加型の文化祭などの企画展を開催しています。

また、展覧会以外の教育普及プログラム等も順次実施しており、出前授業や貸ギャラリー等もご利用いただけます。

近年は地元気仙沼市内の小・中学校を中心に、常設展を多くご利用いただいています。特に地域学習、また社会科の「昔の道具とくらしの変化」などにおいて、歴史民俗展示「方舟日記」にて農具や漁具などを見たり、担当学芸員の解説を聞いたりして、楽しく学んでいます。

団体での講座利用や美術作品鑑賞、震災展見学なども行われ、世代を超えて作品や資料に触れ、作品の意味や表現について考えたり、意見交換したりして、思い思いに有意義な時間を過ごしている姿が見受けられます。

QRコードから、リアス・アーク美術館ホームページへご案内いたします。



前号の表紙



当館エントランスホールに、館長が手塩に掛けて育てている観葉植物の「パキラ」があります。熱帯植物で尖った5枚の葉っぱが特徴のパキラ。最初は人の背丈ほどでしたが、ぐんぐん成長し、現在では3.2メートルほどまで大きくなりました。

天井高は、およそ6メートルありますが、果たしてどこまで伸びるのか。職員みんなで見守っています。



リア美が開館30周年

1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024



おかげさまで、リアス・アーク美術館は、本年10月25日に1994(平成6)年の開館から30周年の節目を迎えます。

開館当時、当館は気仙沼市と志津川町・津山町・本吉町・唐桑町・歌津町の一市五町で構成する気仙沼・本吉地域広域圏が管理運営する広域圏美術館として事業を開始しました。2004年の開館10周年の際には、開館以来様々な企画展を通してお世話になった作家の皆さんに出品を依頼し、開館10周年記念展を開催しました。作家の皆さんからは当館へ宛てた手紙も執筆いただき、「美術館」とは何か、また、当館の在り方について共に考察する機会となりました。

開館20周年を迎えた2014年、当館を取り巻く環境は激変していました。当初一市五町であった広域圏構成市町は2009年のいわゆる「平成の大合併」により、気仙沼市と南三陸町の一市一町となりました。そして2011年、東日本大震災の津波災害により気仙沼市と南三陸町が甚大な被害を受け、以降現在に至るまで震災復興の名の下にまちは変化し続けています。

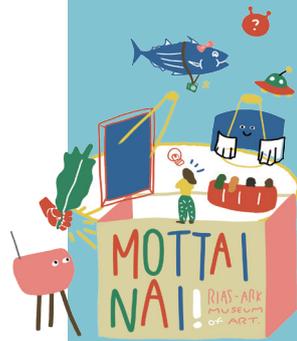
東日本大震災によって施設に大きな被害を受け休館を余儀なくされた当館は、約一年半の復旧期間を経て2012年7月に部分開館、9月には従来の常設展を再開、翌2013年4月に常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」を新設、公開するとともにすべての事業の再開を果たしました。そのような状況の中で迎えた開館20周年事業では、震災以前より当館と深い関係性を築いてきた作家の皆さんと、震災以降に深いつながりを得た関係者に作品制作依頼をする形で「震災と表現」BOX ARTを共有するためのメタファー展を開催し、震災とアートについて、また作家の皆さんの震災の捉え方などを紹介しました。

2011年来長く続く苦悩の時を経て、本年度リアス・アーク美術館は開館30周年を迎えます。しかし、主に財政的な面において晴れやかにお祝いするという状況にはおかれていません。本年度施行された博物館法の改正もあり、今後の美術館活動における理念の維持が可能かどうか、また経年による施設の劣化、以後の維持管理なども懸念されます。

大きな課題を抱えつつも開催を迎える30周年記念事業では、記念展や関連催事、シンポジウムなどが開催されます。展覧会や催事は令和4年度より継続開催してきた「リアス・アーク美術館開館30周年記念展企画ワークショップ」によって企画立案されたものです。当館のこれまでの活動をベースに考案された地域のデザインを軸とした展覧会。シンポジウムと合わせて、今後の当館や人・まち・暮らしについて考察する機会としていきます。

本号後半では、この開館30周年記念展企画ワークショップの活動や展覧会の内容の一部について紹介します。



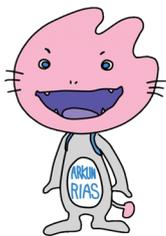


リアス・アーク美術館 円卓会議



《円卓会議とは?》

リアス・アーク美術館では令和3年度より、教育普及事業として「リアス・アーク美術館 円卓会議」を開催してきました。同事業は地域で活躍している多様な人材をメンバーに迎え、美術館と地域住民が目線を重ね、地域の未来を共に創造することを最終目的として目指しつつ、リアス・アーク美術館を有効に活用すること、まちづくりの一助とするものです。



《メンバーはどんな人?》

クリエイター(デザイナー・YouTuber・漫画家・イラストレーター等)や教育関係者(教員や子育て中の女性)、観光セクター関係者、一次産業従事者(漁師)など、多様な地域住民をメンバーに迎えています。令和5年度末時点では9名の方がメンバーとして在籍していますが、中には小学生の頃に当館ワークショップを利用していたことがきっかけの1つとなって、現在クリエイティブな仕事をしているというメンバーもいます。

《活動① 美術館を知る》

より良いまちづくりのためにリアス・アーク美術館がこれまで以上に積極的に活用されることを目標として、話し合いやバックヤードツアー、統計資料の検討等を実施。リアス・アーク美術館と地域の現状や課題について共有しつつ、改めて目指すべきゴールを確認する作業を、令和3年度と4年度に行いました。このプロセスを経たことで、リアス・アーク美術館の現状に沿った生産的な議論や実現性の高いアイデアの検討が可能となりました。



《活動② プランの作成》

令和5年度は、活動①で共有した価値観や現状をひまえ、会議を重ねました。美術館が地域住民にもっと利用されるようになるためのプランを各メンバーが考え、協議し、ブラッシュアップしてきました。その中で見えてきたキーワードは「もったいない」。せっかく地域に価値のある美術館があるのに、利用されていないのは、もったいない! そのもったいない現状を改善するための活動を「もったいないプロジェクト」と名づけ、年度末にこれまでの成果を住民に向けて発表する公開イベントを開催しました(次ページ)。





リア美もったいないプロジェクト

「リアス・アーク美術館利用拡大してみる会？」



令和6年2月25日、「気仙沼市ひと・まち・しごと交流プラザ」軽運動場を会場に、公開イベント「リア美もったいないプロジェクト〜リアス・アーク美術館利用拡大してみる会?〜」を開催しました。メンバーでチラシをデザインし各所に配布、SNSによる周知、当日の司会やファシリテーションを担うなど、円卓会議でプロデュース運営した企画です。

イベントは3部構成。第1部ではリアス・アーク美術館の山内館長による基調講演「そもそも美術館って何だろう?」と、それを受けてのメンバーによるトーク、第2部ではメンバーによる利用拡大プランの発表、第3部ではイベント参加者も交えての質疑応答や意見交換を行いました。当日、会場には54人が来場し、大いに賑わいました。

【第2部にて発表したプラン】

- ① 阿部正太郎「和船をつくろう(案)からはじまる物語」・「つみとも展2024」
- ② サユミ「気仙沼まちあるきツアー スーパーマニアック」
- ③ 小松萌「ライト層向けアプローチ強化」
- ④ 加藤屋大悟「みんなのホヤぼーやとオクトパスくん展」
- ⑤ 昆野哲「リアス・アーク美術館 ハイビもったいない!」

第3部では住民から基調講演の感想や発表プランに関する質問や提案など、様々な声が寄せられました。また、アンケートではリア美を「利用したことがない」、「あまり利用しない」という回答の合計が全体の4割以上を占めていました。本イベントが、普段はリア美に足を運ばない住民が美術館を知るきっかけになったことが分かります。



アンケートの記述回答では「美術館の本来の役割を学べた」、「確かにもったいないと感じた」、「プレゼンのアイデアが素晴らしく、応援したくなった」などの意見が多く寄せられました。

円卓会議、および「もったいないプロジェクト」は今後も継続予定です。令和6年度は各プランの実現に向け、それぞれ進めていく予定です。また年度内にその成果の一部を展示等で公開する計画も進行中。今後とも円卓会議から生まれるリア美の新しい活動に注目、ご期待ください!



常設展見学モデルー遠足や校外学習にも

■ピンポイントコース(30分〜1時間)

お目当ての常設展の観覧(学芸員解説も可)

社会科 「昔の道具」・「地域の産業や歴史」など

美術科 「美術作品鑑賞」・「素材と表現」など

生活・総合 「震災から学ぶ」・「減災学習」など

■ゆったりコース(目安2〜3時間)

常設展と企画展を観覧▼レストランで昼食や喫茶▼建築の観賞▼ショップでお買い物

例 企画展鑑賞「〇〇展」▼美術・民俗常設展観覧

▼昼食(レストラン)▼震災常設展観覧

¥0で楽しむ美術館(入館のみなら無料)

館内と館周辺の散策・展望台での記念撮影・建築、屋外作品観賞・中庭でお弁当ランチなど。

出前授業のご案内ー講師料は無料です

学校の先生！行事の幹事さん！当館学芸員を講師とする講座はいかがですか？ジャンルは美術・工作・地域文化・歴史・民俗・震災など幅広く、メニューもたくさんあります。講師料や交通費は無料。内容や時間などは応相談。ご希望などをお伺いします。詳細はホームページの「美術館からのお知らせ」から「出前授業」をクリックし参照ください。

ご利用案内

開館時間	9:30~17:00(最終入館は~16:30)	
休館日	毎週月・火曜日/祝日の翌日(土、日・祝日を除く)・年末年始・メンテナンス休館(12月末~1月中旬頃)	
入館料	無料	
観覧料	■常設展 (団体は20名以上)	
	区分	個人 団体料金
	一般	700円 600円
	大学・短大 専門学生	600円 500円
	高校生	500円 400円
	小・中学生	350円 250円
	※フリーパスポートで圏域内小・中学生、高校生は無料	
	※常設展は3種ご覧になれます。	
	■企画展=展覧会ごとに設定	
	■共催展等=基本無料	

お問合せ先

リアス・アーク美術館

気仙沼市赤岩牧沢1388-5

(気仙沼市総合体育館1階)

電話 0226-24-1611

Eメール riasark@mifty.com

ホームページ riasark.jp



※療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその介護者1名は常設展無料、企画展半額。身体障害者手帳をお持ちの方、及び障害の程度が一級または二級の方の介護者1名は常設展無料、企画展半額。

アクセス

三陸自動車道(気仙沼中央IC)から約5km(仙台市から約115km/石巻市から約70km/陸前高田市から約25km)、東北自動車道(一関IC)から約50km ◆無料駐車場あり(普通37台大型5台)



東北新幹線【一関】(大船渡線)ー沼線【気仙沼】※気仙沼駅からタクシー(約15分)をご利用ください。 ※「タクシー割引券」と「常設展観覧券引換券」のセットクーポン券が気仙沼駅前観光案内所、気仙沼市観光協会(電話:0226-22-4560)で販売中。 ※現在、気仙沼線【前谷地・気仙沼】、大船渡線【盛・気仙沼】間はBRT運行。*仙台ー気仙沼、一関ー気仙沼間で高速バス運行中。

アクセスマップ



お問合せ先/気仙沼・本吉地域広域行政事務組合
〒988-0104 宮城県気仙沼市赤岩五枝郷43番地2
TEL:0226-22-9111/FAX:0226-22-8008
Email:kouiki@km-fire.jp

